

平成29年度オリンピック・パラリンピック教育アワード校

練馬区立貫井中学校の取組について(報告)

平成29年度も練馬区立貫井中学校は東京都より「オリンピック・パラリンピック教育アワード校」として指定を受け、昨年度に引き続き、様々な取組を行ってきた。

昨年度は、「障害者理解」を重点に取り組んできたが、今年度は「障害者理解」をもとに、さらに一歩進んで体験を多く取り入れながら、「ボランティアマインドの醸成」に力を入れて取り組むことにした。

ここでは、今年度の主な取組事例を簡単に紹介する。

1 サインヴォーカリスト「水戸 真奈美さん」を講師に迎えて、道徳授業地区公開講座(6/10)実施

- ・事前の全体道徳では、2020東京オリンピックのエンブレムの意味(互いに認め合い、支え合い一つになること、あらゆる障がいを超えて人と人がつながること、スポーツは誰もが共有できること)を考え、今自分たちにできることを考えた。
- ・当日、水戸真奈美さんのお話の中で、引っ込み思案だった水戸さんが手話と出会い、歌手になる夢を実現できたことや耳が聞こえない人にも歌を届けたいという思いでサインヴォーカリストになったことを話された。東日本大震災のとき結婚式直前で亡くなられた遠藤未来さんとの出会いもすてきなお話だった。



- ・講演の中で、2つの勇気「あきらめない勇気」と「あきらめる勇気」について話をされ、考えさせられた。そして、ダイバシティ(多様性)という見方や考え方の重要性を学んだ。
- ・最後に、生徒や教員はもちろん、保護者、地域の方と共にあいさつの歌を手話で合唱し、本当に心が一つになった、楽しいひとときとなった。

2 各種ボランティアの募集と実施

- ・地区公民館から、毎年、七夕祭りやカルタ大会などのイベントのボランティアの要請がある。今年も、生徒会の呼びかけで各行事に数名が参加し、準備を手伝い、小学生の面倒を見るなど活躍した。

- 今年度は、練馬高齢者相談センターからもボランティアの要請があり、生徒会が呼びかけた。12月のボランティアでは、お年寄りと話したり、お世話をしたりと初めての体験をした。
- 毎年、貫井第二保育園では貫井中の体育館を使って運動会を行う。前日の準備では、中学生が保育園から荷物を運ぶ。今年も技術科の先生の呼びかけに多くのボランティアが集まり、しっかり仕事をした。

3 「オリンピック・パラリンピック教育の授業づくり」実践事例発表



- 平成29年度の東京都教職員研修センターが実施する「オリンピック・パラリンピック教育の授業づくり」研修の第3回目を、10月6日（金）の5校時に貫井中学校の体育館で行った。
- 指導教諭は、本校のオリンピック・パラリンピック担当教諭で、内容は、「障がい者理解」をテーマとして、「ブラインドサッカー」を題材に取り上げたものだった。
- スポーツの文化的な意義やはたらきを学習した後、特に障がい者スポーツの体験を通して理解を深める授業を実践した。生徒たちは、アイマスクをしてボールを探し、蹴ることに対して、最初は不安や恐怖を感じていた生徒もいたようだったが、声をかけ合ううちに、不安もなくなり、最後は楽しかったと話していた。
- 最後のグループワークでは、声をかけ合うこと、目がみえない人でも分かりやすい指示を出すこと、言葉は短くすることなど、自然と障がい者に優しい環境を作ることが大切だということを感じたようだった。

4 「明日チャレ！スクール」ゴールボールプログラムの実施

- 1学期に公益財団法人 日本財団パラリンピックサポートセンターによる「あすチャレ！スクール」に応募し、12月15日（金）に、種目はゴールボールで、講師は第一人者の高田朋枝氏で実施することが決まった。本番前に、保健体育の授業を中心にゴールボールというスポーツや高田朋枝氏について、簡単な学習をして本番を迎えた。



- 当日は、ゴールボールのルール説明を聞いた後、実際に事前に選出した代表生徒と先生による体験を行った。アイシェードをしてのプレーに最初は不安もあったようだったが、少しずつ慣れて楽しい体験に変わっていった。高田さんのデモンストレーショ



ンや高田さんとの対戦では、目が見えないことが信じられないほどのレベルの高さに驚き、日本を代表する選手であることを、改めて感じたようだった。

- 高田さんの講演では、5歳で目が見えなくなってからも明るく前向きに過ごされてきたこと、目が見えないことを普通のこととして生きていることから、障がいの別のとらえ方を学ぶことができた。

5 進路・人権に関する講座（2つ）の実施

① 「認知症サポーター養成講座」（2／23実施）

- 第2学年で、練馬高齢者相談センターの方をお招きして、認知症とはどういうものなのか、また、認知症の方に対してどのように対応したら良いのかなどを、冊子を使って説明していただいた。具体的に、認知症の方への対応を生徒の代表に実践してもらい、理解を深めることができた。

- 感想などを書いて、最後に、講座を受けた全員がオレンジリングをもらった。いずれ誰もが認知症になる可能性があり、すぐに実践につなげられるかどうか分からないが、生徒たちにとっては大変良い勉強になった。



② 「技師についての講話」（3／1実施）

- 本校の学区の近くにある「吉田技師装具研究所」の橋本匡史様による講話が行われた。”1時間”という短い時間だったが、どのようにして義足等が作られるのか、どのような種類があるのかなど30分ほど映像を見ながら説明を受けた後、実際に各クラスの代表者がサポーターやコルセットなどを着けて、体感をした。身に着けてみて歩きやすいと感じた人や体が楽になったと感じた人もいたようだった。

- 質疑応答の後、見本に持ってきてくださった義足や義手を触ることができた。人に合わせて作るため、何度も何度もやり直しをして作られた義足や義手を、じっくり見たり触ったりする生徒たちの様子が印象的だった。



6 ユニバーサルマナー教室（3／13）実施

- 「ユニバーサルマナー教室」とは昨年度から第3学で実施している取組である。まず、「ユニバーサルマナー」とは自分とは違う誰かのことを思いやり、適切な理解のもとで

行動することだと学んだ。そして、障がいのある人やお年寄り、LGBTといわれている人、様々な方々と共に生きていく上で、本当に必要で大切であるということが理解できた。

- この授業は、話を聞くだけでなく体験も行った。実際に人との違いを話し合い発表したり、目が見えない方の目になって画面に現れた絵を言葉で説明したり、耳が聞こえない方のためにジェスチャーだけで文章を伝えたりする体験だった。難しかったが、楽しく取り組み、最後に認定証が全員に渡された。
- 自分とは違う誰かのことを理解するため、自分から声をかけたり、行動したりする勇氣が必要であると分かった。相手が求めていることを理解して、対応することが本当のボランティアになるのだと確信できた1時間であった。



7 陸上競技部が「練馬こぶしハーフマラソン」にボランティアとして参加



- 練馬区で開催している「こぶしハーフマラソン」が、3月25日（日）に今年も開催された。光が丘公園を出発した5000人が区内を駆け抜けた。その中で、本校の陸上競技部の生徒が、ランナーに水を配るといふボランティアを行った。
- 初めての体験でランナーと一般の方を間違えたり、途中で紙コップが足りなくなったりというハプニングはあったものの、生徒たちにとっては楽しい体験となったようだ。次年度は他の部活動に声を掛けたり、ボランティアを募ったりして、多くの生徒に体験させたいと思う。

8 最後に

- 他にも、今年度は海外留学生を招いたり、海外の柔道指導者が訪問したりと国際交流や異文化理解を深める機会があった。言語が違う相手と話をする経験の中で、ボランティアについて考える機会を作ることができた。
- 今年度は、全教員が授業の中でオリンピック・パラリンピックに関する内容を1時間以上取り上げることを年度当初に確認した。年度当初の自己申告の面接で、具体的にどの単元で取り上げるかを各自が申告し、実際に予定を立て実施してきた。次年度も続けて取り組んでいきたい。

